

柴田町図書館基本理念（案）

コンセプト

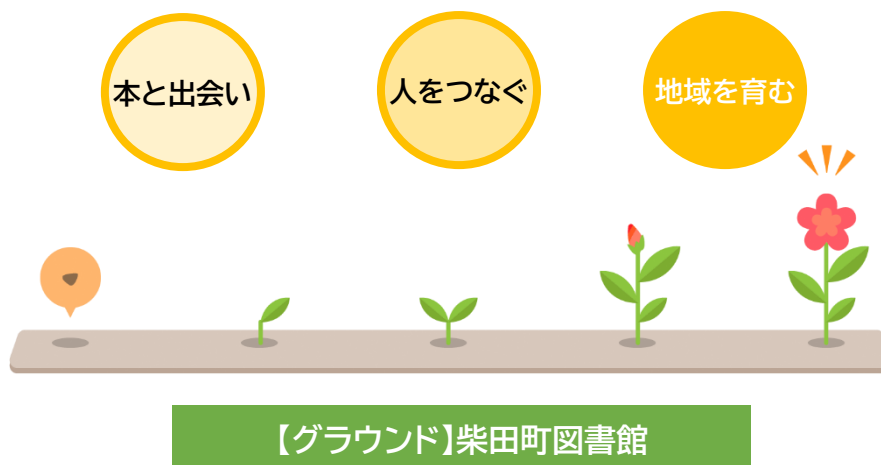
【当日配布資料2】

【案1】

本と出会い、人をつなぐ、地域を育むグラウンド

本と人との出会いで 咲かせようしばたの花

図書館は、たくさんの本との出会いを通して、新たな学びや発見を得られる場所です。また、本を通じて人々が集い、交流が生まれたり、憩いの場所としてすべての人を受け入れる場所でもあります。住民同士だけでなく、観光客等の関係人口も含めた交流が生まれることはまちの新たな可能性にもつながります。柴田町図書館は、本との出会いが人をつなぎ、地域の新たな文化が育まれるための土壌（グラウンド）となることをめざします。



メモ：柴田町総合計画の将来像「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」や、都市再生整備計画において「花のまち柴田」のテーマが重視されていることを踏まえたご提案です。

【案2】

新たな出会い・発見の入口として、すべての人に扉を開く

図書館は、新しい本や学びと出会うことができ、本を通して世界とつながることができる入口となる場所です。柴田町図書館は、町民がより多くの本と出会うこと、本を通して多くの学びや発見を得ることができるようサポートをします。また、子どもから高齢者まで、障害の有無や国籍等にもかかわらず、誰もが利用しやすい場所として、いつでも扉を開いた場所であることをめざします。

メモ：アンケート調査やWSによる住民意向として、新たな本と出会うこと、求めた本を得られるという基本的なサービスへのニーズが高いことや、だれにでも心地よい空間であること等の意見を踏まえたご提案です。

柴田町図書館基本理念（案）

柴田町図書館を取り巻く現状と求められる機能

○各種アンケート調査やワークショップ等による住民ニーズのほか、統計データや時代の潮流等を踏まえた柴田町図書館の現状と求められる機能について、次のとおり整理します。

① 図書館サービスの基本の充実

- ・住民アンケートによると、図書館の利用者のうち月に1回以上利用しているリピーターは約4割で、半数以上が年に数回または過去に何度か利用した程度と回答しており、利用頻度があまり高くない様子がうかがえます。
- ・新図書館へのニーズをみると、利用頻度の高い人ほど、蔵書数や貸出サービス等、図書館の基本となるサービスの充実を求める声が多くなっています。
- ・統計データによると、図書館サービスの中でも、貸出と合わせて重要な機能であるレファレンスの件数が、近年は一貫して減少傾向にあります。正しい情報を取捨選択し、住民の知りたい、学びたい気持ちをサポートするレファレンスサービスは、情報過多な現代においてこそ重要性が増しているものと考えます。

【新図書館に求められる機能】

- *蔵書の充実
- *新たな本と出会う機会の創出
- *レファレンスサービスの充実

等

② 図書館の利便性の向上

- ・利用頻度の低い人や利用したことがない人では、リピーターの方に比べて、どこに住んでいても利用しやすくなる環境へのニーズが高くなっています。また、利用したことがない人の図書館を利用したことの理由は、「忙しくて図書館に行く時間がないから／本を借りても返しに行くタイミングがないから」が最も多くなっています。
- ・利用者では、時間別や曜日別の貸出状況は年代によってばらつきがみられます。また、来館手段は8割以上の方が自家用車となっています。
- ・利用頻度の増加や利用者の裾野拡大のためには、ライフスタイルの多様化に合わせた利便性の向上が重要と考えます。

【新図書館に求められる機能】

- *返却場所の充実
- *配本サービス等図書館が遠くて利用しづらい人への対応
- *利用しやすい開館日・開館時間の設定
- *図書館ホームページの周知や機能の充実
- ▷駐車場の確保

等

柴田町図書館基本理念（案）

③ 子どもの読書活動のさらなる推進

- ・中高生アンケートによる図書館を利用する頻度では、約8割が「過去に何度か利用した程度」と回答しており、一般市民以上に中高生の図書館の利用頻度が低い様子がうかがえます。
- ・一方、学校図書館の利用頻度は、月に1回以上利用する人が約半数となり、子どもたちにとって身近な学校図書館と連携した取り組みの推進が重要といえます。
- ・住民アンケートにおいても、子どもや子供連れでも利用しやすい設備や環境を求める声が多いことや、読み物や実用書に次いで、児童書・絵本のニーズが高いことから、乳幼児期～ヤングアダルト世代までの切れ目のない児童サービスの提供が求められます。

【新図書館に求められる機能】

- * 学校図書館や関係施設との連携強化
 - * 児童書・絵本の充実
 - * イベントや本の紹介等、読書のきっかけづくりの充実
 - ▷ 授乳室、おむつ交換台等乳幼児連れにやさしい設備の充実
- 等

④ 誰にでも利用しやすく居心地のよい居場所としての環境づくり

- ・住民アンケートでは、勉強や仕事等のほか、グループでの利用にも対応できる多様なスペース・機能の充実が求められています。
- ・また、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を目指し、2015年9月に国連により全会一致で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の推進や、2019年に成立した読書バリアフリー法などの社会的背景を踏まえ、障害の有無や性別、年齢、国籍等を問わず、誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した整備も重要といえます。
- ・このほかにも、住民アンケートでは、居心地の良さや飲食可能スペースへのニーズも多くみられることから、誰もが好きな用途でいつでも利用しやすい“居場所”としての機能の充実が必要とされます。

【新図書館に求められる機能】

- ▷ 落ち着いて本が読める読書スペースの確保
 - ▷ 勉強や仕事等のほか、グループでの利用にも対応できる多様なスペースの確保
 - ▷ 誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した整備
 - ▷ 飲食可能なスペース等居心地のよい環境づくり
- 等

柴田町図書館基本理念（案）

⑤ 住民との協働により地域の拠点となる図書館

- ・柴田町の「都市再生整備計画」によると、計画区域の整備にあたっては、“知の拠点”としての「新図書館」、町の歴史や文化が詰まった「しばたの郷土館」、桜の名所「船岡城址公園」が連携し、『賑わい・交流の拠点施設』の整備を図ることをめざしています。
- ・新たな図書館は、柴田町の歴史や地域の情報を蓄積・発信するだけでなく、住民や関係人口をつなぎ、人々の積極的な利用により賑わいを創出することで、これからの柴田町を育む拠点としても機能することが望まれています。

【新図書館に求められる機能】

- * 柴田町の歴史や地域情報の蓄積・発信
- * 住民や観光客等の交流・連携の場
- * 若者の企業支援等によるまちの賑わい創出
- * 住民が図書館運営に主体的にかかわることができる仕組みづくり 等